

(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040
(仮称) まちづくり基本目標・(仮称) 経営基本方針 (基本計画素案)
パブリックコメント実施結果 (速報)

(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 の基本計画部分である (仮称) まちづくり基本目標と (仮称) 経営基本方針について、市民意見を募集しました。

1 意見の募集期間

募集期間 2020 年 12 月 15 日 (火) から 2021 年 1 月 15 日 (金) まで

2 意見募集の方法

- ◆ 以下の施設での資料閲覧・配布
市政情報課・広聴課 (市庁舎 1 階)、企画政策課 (市庁舎 4 階)、各市民センター、木曾山崎コミュニティセンター、各駅前連絡所、各市立図書館、町田市民文学館、男女平等推進センター、生涯学習センター
- ◆ 町田市ホームページに資料を掲載
- ◆ 「広報まちだ」 (2020 年 12 月 1 日号) にパブリックコメント実施概要を掲載
- ◆ 「広報まちだ」 (2020 年 12 月 15 日号) の特集ページに素案概要を掲載
- ◆ 「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」特設サイトに資料を掲載

3 寄せられたご意見の件数・内訳

電子メール、ファックス、郵送等を通じて、27 名の方から、99 件のご意見をいただきました。

【計画別ご意見件数】

ご意見の対象(項目)	意見No. (掲載ページ)	件数
1. 計画策定の基本的な考え方等に関するご意見	No.1～6	6 件
2. (仮称)まちづくり基本目標に関するご意見	No.7～68	62 件
政策1 赤ちゃんに選ばれるまちになる(出産、子育て)	No.7～13	7 件
政策2 未来を生きる力を育み合うまちになる(教育)	No.14～25	12 件
政策3 自分らしい場所・時間を持てるまちになる(産業、観光)	No.26～31	6 件
政策4 いくつになっても自分の楽しみが見つかるまちになる (生涯学習、スポーツ)	No.32～35	4 件
政策5 人生の豊かさを実感できるまちになる(高齢者福祉)	No.36～37	2 件
政策6 つながりを力にするまちになる(コミュニティ、支え合い、環境)	No.38～43	6 件
政策7 ありのまま自分を表現できるまちになる (地域福祉、多様性、文化芸術)	No.44～45	2 件
政策8 思わず出歩きたくなるまちになる(交通、都市づくり、みどり)	No.46～64	19 件
政策9 みんなが安心できる強いまちになる(防災、防犯、医療体制)	No.65～68	4 件
3. (仮称)経営基本方針に関するご意見	No.69～79	11 件
経営基本方針1 共創で、新たな価値を創造する (情報発信、テクノロジーの活用、連携の促進)	No.69～71	3 件
経営基本方針2 対話を通して、市役所能力を高める (組織力の強化、人材育成)	No.72～74	3 件
経営基本方針3 次世代につなぐ財政基盤を確立する (財政基盤づくり、市有財産の活用)	No.75～79	5 件
4. 「(仮称)なりたい未来」を実現するための横断的なテーマ に関するご意見	No.80	1 件
デジタル化による行政サービス改革に向けて ～町田市デジタル化総合戦略～についてのご意見	No.80	1 件
5. その他、(仮称)未来づくりビジョン2040全体 または 市政全般に関するご意見	No.81～99	19 件
合 計		99 件

<ご意見の概要>

1. 計画策定の基本的な考え方等に関するご意見（6件）

No.	ご意見の概要
1	コロナ禍、社会・経済状況・生活の有り方が変化し、今後大きく変化するか不透明な現況では、基本目標・方針を策定しても計画倒れが懸念される。策定期間を後ろ倒しするか、または策定後の見直しもある旨を記述すべきである。
2	先ず、このコロナ禍に際し、困難を抱える市民をサポートすることが町田市の急務である。コロナ後の社会状況がコロナ以前と同じにはならない、という事はしっかり認識すべきである。少子高齢化・人口減に加え、定着するテレワークにより、社会のあり様が大きく変わるだろうから、まずは、コロナ禍以前に作った全てのまちづくりプランを再検討し、特に大型(再)開発は見直すべきである。
3	誰もがなるほどと思えるもっともらしきビジョンを羅列しているだけで、その目標や構想をどう具現化するかが方法や手段も含めて全く示されていない。これでは良し悪しの評価のしようがない。
4	首都圏であっても西多摩や青梅市では人口減少が始まり「2040年には自治体の半数が消滅の危機に直面する。」とまでいわれている。町田市も予断を許さず、自己財源を生み出し、若者が定着できるまちづくりのために投資すべきである。
5	なりたいまちの姿の実現に向けた課題の(3)20代、30代の転入促進とありますが、政策3について、「自分らしい場所・時間を持てるまちになる」と書かれている。仕事が得られるためには産業の振興は大事で、企業誘致なども重要である。一方、生活の面で充実するには、観光というよりも、衣食住・文化・教育、交通の便などが充実することが重要である。これらは、政策1～5、すべての年代に通じることでもある。
6	全体をとおしてSDGsの実現に貢献していくと記されているがどう貢献しようとしているのかが判らない。

2. (仮称) まちづくり基本目標に関するご意見（62件）

(1) 政策1「赤ちゃんに選ばれるまちになる」に関するご意見（7件）

No.	ご意見の概要
7	人口減少・少子化が進む資料を読んで、町田市を、一刻も早く、赤ちゃんに選ばれる「まち」にする必要性和緊急性が高いと思った。そのため、若年層への経済支援を、近隣の市町村・23区より先んじて、より手厚くしないといけない。
8	「赤ちゃんに選ばれるまちになる」。相原町に保育園を増やす。現状2箇所しかなく、とても離れている。電車通勤だと、駅近にあったほうが効率的だが、こうさぎは常に人気で入れず仕方なく仕事を辞めるか引っ越しする人が多い。
9	政策1に対しては「保育園の充実を図る」など、具体的な施策の記述が必要。
10	町田の将来を考えた場合、赤ちゃんに選ばれる住みやすい街になることが最優先である。その

	ためには、道路が整備されていて、子供たちでも安全に移動できる必要がある。町田市の資産と言える団地を、リノベーション工事で質の高い団地を安価に提供しても、駅までの交通の便が悪くては、赤ちゃんに選ばれる街にはならない。自動車専用道路、共存道路、歩行者専用道路、輸送専用道路の4種類の道路を組合せなど、交通基盤の改善は、子育て世代だけでなく、高齢者にも役立つものと思います。
11	妊娠・出産・養育への大幅な支援も必要。妊娠が判ったらそれ以後出産まで診察、医療費は無料にして欲しい。
12	保育園や幼稚園の拡充と費用への大幅援助が必要。
13	ひとり親家庭にはさらに大きな支援が必要。

(2) 政策2「未来を生きる力を育み合うまちになる」に関するご意見（12件）

No.	ご意見の概要
14	学ぶ意欲を育てるならば少人数学級へ。40人学級では個に対応した指導が難しく、理解不十分なまま、次へ進むことになる。次第に学ぶ意欲も削がれていき、学校を嫌い、不登校にまで発展することもある。少人数学級にして、担任の、一人の児童に対して目をかけられる時間を多くすることで「分かった」「楽しい」が増え、学ぶ意欲も湧くものである。 今後は1年生から順次30人学級になるように、町田市は都や国に働きかけてほしい。市独自では学級の児童数を減らすことはできないが、今現在35～40人学級のある市内の学校を優先的に、市費職員を配置することは可能なのではないかと。
15	政策2に対しては「小中学校の少人数学級の実現を計る」とか具体的な施策の記述が必要と考える。
16	学校の統廃合計画が出ているようだが、コロナの時代を経験して少人数学校（20人以下）で、ひとりひとりの児童・生徒に合わせて、丁寧な指導が望まれる。現在の学校を残し、教職員も増やし、広いスペースで豊かな子どもを育てる良いチャンス。大型開発は思いきってやめ、財政の多くを教育の場に回してほしい。国の政策とともに親が8時間働けば暮せる生活を保障し、親が子どもと接する時間がしっかりもてるようにしたい。
17	食育基本計画（行政・各校も）は貧弱、食育担当者が学校にいないのは、問題である。早く当り前の23区にある又は調布のような中学校給食を是非。
18	「教育環境を充実させる」について、中学校給食を一刻も早く実現してほしい。東京都で、中学校給食を実施していないのは4市町村だけです。学校給食法違反。これは、実現する見込みの情報を耳にした。早期の実現を大いに期待している。
19	質の高い教育環境の整備について、学校のライフサイクルコストの縮減及び予算の平準化を図るためには、公共施設のエネルギーを、電気・ガスをベストな割合でミックスしておくことが重要と考える。また、学校施設に求められる避難所等、多目的施設としての機能・性能を確保する上で、停電対応型の空調設備の導入を検討することも重要と考える。 また、災害時の避難所としての開放を見据えて、停電時においても被災者の健康を害することのないよう停電対応型の空調設備（特に酷暑対策の冷房設備）の導入を検討することも重要である。
20	「質の高い教育環境の整備」の一環として、施設への空調設備導入が進んだが、大部分の学校建築は断熱性能が低いままである。断熱性能が向上すると、光熱費などのランニングコストが

	低減できるだけでなく、快適な学習環境の提供により子どもたちの健康な身体を育み、勉強もはかどる恩恵が得られる。
21	学校統廃合については、子供の通学距離も統廃合決定基準に入れるべきである。1学年4学級が基本となるように統合されるようだが、せめて1学年3学級ではないか。統廃合しようとする学校が密集している地域と、大きく離れている地域と同じ基準で統廃合を決定しないでいただきたい。現在の審議会の案では統合した結果、通学時間が長くなる場合もあり、多くの児童生徒が同時刻に歩道の整備をされていない道を歩くのは危険である。夏場は熱中症の危険もある。同心円の中に入る程の距離の学校統合とかなりの距離のある学校との統合と同じ基準で審議すべきではない。
22	学校の統廃合に反対する。小中学校は、高齢者にとっては歩いて行ける距離に簡単な運動の場、仲間や生徒とのコミュニティの場、災害緊急時の避難場として重要な役割があります。遠くの立派な施設より身近な小施設が必要です。
23	学校の統廃合に反対する。町田市では校舎老朽化と生徒数減少を理由に小・中学校の統廃合に向かっていますが行き届いた教育のために20人学級が欧米では当たり前である。また、今後繰り返されるといわれる感染症の対策に席の間隔を取るためにも、少人数学級にすべき。空き教室が無駄になることはない。必要な先生の数が増えたり校舎の補強、建て替えが必要になるがそこにこそ税金を使うべき。
24	「地域の教育力を高める」について、相原では、地域の吉老を学校にお招きし、昔遊びや昔の話を聞いたり、給食を共にしたり交流をはかっているようである。それぞれに専門の方がいらっしゃるの、地域ごとに人材バンクを作り、地域の教育力を高めると良いかと思う。クラブ活動などや総合学習などで交流を深められ、高齢者の生きがいにもなる。登下校時には高齢者が立ち、見守っている。 子ども食堂が全国で立ち上がっている。市と地域の連携が必要である。
25	「学校と地域の協働」で、授業づくりの担い手として町田市内で活動を展開するNPO・市民活動の活用を推進していくことで、児童・生徒に生きた知識や能力を習得させることができる。

(3) 政策3「自分らしい場所・時間を持てるまちになる」に関するご意見（6件）

No.	ご意見の概要
26	市は北部丘陵地域の里山に、100ヘクタール以上もの山林・農地を所有しているが、多くが活用されず放置されている。市民が集い活用しやすい里山環境の整備を実施してほしい。
27	市は北部丘陵地域の市有地は境界未確定で民有地と一体となった活用ができないなど、荒廃が進行している。市有地の境界測量や民有地との交換による集約、地目変更等により、地元市民や活動団体などが集いやすく活用しやすい持続可能な環境整備を進めてほしい。
28	北部丘陵の里出は、市有地が多くを占めているにも関わらず、かなり荒廃していると思う。市が積極的に、不法投棄物の撤去、散策路の下草刈り、農道整備などを行って、持続可能な環境にしてほしい。
29	市外の人から見た町田市のイメージは、町田駅と周辺の賑やかさとマンモス団地である。旧忠生村の地域は市内唯一自然の緑や開発余地があり、このゾーンをどう開発するかが町田市の発展の鍵だと思う。
30	町田の農業を支えてほしい。現在日本の食料自給率は50%に届かず、輸入に頼っているのは、いず

	れ日本は食料不足の危機に陥る、と言われている。町田で農産物を増やしていくことは今後益々重要な意味を持っている。 町田には良い農地が残されているのだからそれを大事にすべき。
31	地域資源の定義にエネルギーの視点が無いのが残念である。町田は都内有数の商業地・住宅地であり、建物の屋根を活用して降り注ぐ太陽エネルギーを電力や熱として地域で利用することで、地域経済の活性化や脱炭素、災害時のレジリエンス強化などに貢献し、地域ブランド力の向上にも寄与する可能性がある。

(4) 政策4「いくつになっても自分の楽しみが見つかるまちになる」に関する

ご意見 (4件)

No.	ご意見の概要
32	町田市は、身近に大きなスポーツ広場や施設に乏しい。現在進められているゴミの最終処分場跡地などの上部利用の町田スポーツ公園計画の実現を期待する。
33	町田市はサッカーをはじめスポーツが盛んなところです。しかし、他市と違い、大きな河川敷がないなど、広い運動場が少なく環境に恵まれていません。 ゴミ最終処分場等跡地に建設されるまちだスポーツ公園にオリンピック種目のBMXなど丘陵コースも整備し、自転車競技施設を併設し、総合自転車(サイクル)センターを建設することを望みます。
34	まちだスポーツ公園と交通公園の建設推進が始まろうとしている。予定される忠生地域の丘陵地の施設は、周辺道路や大規模な緑地、公有地があり、これらを生かし交通公園では交通安全教育施設だけでなく併設しシェアコミュニティサイクル事業の本拠地として、またトライアスロンやオリンピック競技種目のBTB・BMXなどの施設とともに周辺道路の面的整備をし、総合自転車(サイクル)センター設置を提案したい。南町田グランベリーパーク、芦ヶ谷公園、市営球場、薬師池公園、野津田公園、スポーツ公園、高尾山(市外だが)を結ぶサイクリング道路の整備をし、ロードレースの実施を提唱したい。
35	スポーツの場や施設機能だけではなく、地域防災・交流機能として強化するためにも、各種競技の全国大会が開催できる避難所機能を備えた大規模体育館が必要である。

(5) 政策5「人生の豊かさを実感できるまちになる」に関するご意見 (2件)

No.	ご意見の概要
36	高齢者の健康づくりに「町トレ」制度は素晴らしい。続行拡充お願い致したい。
37	今後の高齢化社会の進展を見据え、医療・介護連携における課題の解決を図るためには、注意喚起や設備改善等を通じた予防策の実施による健康被害抑止の重要度が増してくる。在宅療養の需要増加が見込まれる中、予防策としてバリアフリー化とヒートショック対策に努めることが重要だと考える。

(6) 政策6「つながりを力にするまちになる」に関するご意見 (6件)

No.	ご意見の概要
38	行政と地域の取り組みに加えて、事業者との協働についても施策に反映させることが必要であ

	る。なりたい姿の実現に向けた施策の方向性「3 地域での見守り・支え合い」の記載を「市民・事業者・行政が身近な地域の助け合い・支え合い活動と協働することで～」としてはどうか。
39	ごみの減量、リサイクルの推進について、ニツ塚最終処分場や清掃工場のキャパシティーも切り口にしてはどうか。 ニツ塚は多摩地区が有する最後の最終処分場であり、できるだけ延命させる必要がある。また、清掃工場も損耗が激しいと思われ、そうした背景からもごみの減量、リサイクルが求められているのではないかと。
40	町田市で暮らすことの魅力のひとつである「里山環境の活用と保全」(p74)や「生物多様性の保全」(p99)についてはわずかに数行の記述しか説明文がなく具体性を著しく欠いている。守るべき魅力をより明確に見定め、永続して保全するために「町田市版レッドリスト」を策定することを明記し、町田市版レッドリスト対象種は絶滅させないなどの達成目標を示すべきである。
41	気候変動に伴う災害リスクへの対応は重要度を増しており、系統電力停電時への備えは急務となっている。「エネルギーの確保」について施策に反映させることが重要と考える。そのため、なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向の記載に、「温室効果ガスの排出削減や吸収する緩和策」、「災害リスクへの備えとして、エネルギーの自立化・多重化を検討し、エネルギーの確保に向けた取り組み」の視点を追加してはどうか。
42	「国は、2050年までに80%の温室効果ガス排出削減を掲げています」の文言について、菅首相が昨年10月26日に衆議院本会議の所信表明演説にて「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」を宣言している。また衆議院では同11月19日、参議院では同20日に「気候非常事態宣言決議」を可決している。この現状を素案にも記述すべきである。 また、市内で排出される温室効果ガスの削減策として、市所有施設の電力調達を再生可能エネルギー由来の電力に切り替えることや建物のZEB化や屋根屋上への太陽光発電設置が挙げられる。施策推進の方向性を明確にするためにもこうした具体策を素案に盛り込むことを求める。
43	生物多様性保全を目指すために、町田の豊かな自然環境を指標する生きものの存続を具体的な保全目標として設けてはどうか。例えば、樹林のつながりと広がりがなくと存続できない樹上性のムササビが町田には生息しており、町田という地域性を捉えた哺乳類といえる。

(7) 政策7「ありのまま自分を表現できるまちになる」に関するご意見 (2件)

No.	ご意見の概要
44	日本の版画は他国の画家も育てている歴史のあるものであり、町田市立国際版画美術館の貴重な内容を維持してほしい。
45	文化財・古い建築物(博物館など)・史跡や遺跡の保存も大切にする町田市であってほしい。

(8) 政策8「思わず出歩きたくなるまちになる」に関するご意見 (19件)

No.	ご意見の概要
46	公園を充実して欲しい。公園の遊具がほとんど無かったり、子どもが楽しめていない。砂場にはネットもないので衛生的に心配。仕方なくこうさぎ保育園の園庭に行っているが、気軽に楽しめる公園が欲しい。コロナ対策で水道も必要。

47	市は自然を活用した観光まちづくりを早急に進めて欲しい。そのためには、道路の整備や拡幅、小田急多摩線小山田駅の早期実現は必要不可欠である。地元民が愛着を感じ住み続けたいような、来訪者にとっては何度でも訪れたいようなまちを実現して欲しい。美術館、博物館、子どもたちが楽しめる遊園地、歴史館など自然の中で芸術や歴史、科学に触れることも大切と考える。
48	忠生地区は、多摩地区の26市の平均的面積を有し、市街化調整区域を残す緑多いまちでもあるが、都心や多摩地区中央部へ繋がる鉄道網がない。早期に小田急多摩線、多摩都市モノレールの延伸を実現するとともに、自然を活かしたシェアコミュニティサイクル事業着手など、補完移動交通手段導入も併せ住む人・訪れる人にとって交通便利性のあるまちにしてほしい。
49	町田市の発展は、市内の屋台骨にモノレール鉄道を敷くことにかかっています。是非共、この地域との経済、生活、文化、歴史等を新たな交通で交流を深めて頂きたい。
50	政策8を実現するには、小田急延伸が必要であり、あの周辺は具体的に実現性がある。
51	上・下小山田地域は交通の利便性が悪く、食料品一つ買うにも車が必要となっている。これからの超高齢化や脱二酸化炭素社会に対応していくためにも小田急多摩線延伸による小山田新駅の実現が必要である。新駅を拠点とすれば地域の活性化、自然の有効活用が図れる。新たな交流・協働の場となる新駅周辺のまちづくりを進めてほしい。
52	小田急多摩線延伸による小山田新駅を早期に実現していただきたい。このことが北部丘陵の観光まちづくりや地元民のアクセス向上につながると思う。
53	市内でも、陸の孤島となっている忠生北西部に、小田急多摩線の小山田新駅を早期に実現し、そこを拠点とした路線バス網を新しく整備してほしい。この地域の自家用車に頼った生活は、高齢化で難しくなる。
54	市域が広く、中央部の忠生地区は、丘陵部の調整区域があるなど開発余地もあり期待が大きい。自然を活かした交通利便のまちづくりを進めるため、早期に多摩都市モノレールと小田急多摩線の延伸とともに、近接のリニア中央新幹線神奈川駅（橋本駅）にリンクしたシェアコミュニティサイクル事業など展開し、若者定住のまちづくりを進めて頂きたい。
55	多摩都市モノレールの延伸も重要であるが、小田急多摩線の延伸は、工事着手すれば多摩都市モノレールよりも、かなり早期に実現できると想定される。悲願である忠生北西部の公共交通不便地区の解消や北部丘陵地域の活性化のためにも、小田急多摩線の延伸と新駅を早期に実現していただきたい。
56	忠生地域は鉄道駅から遠く、特に上・下小山田町などの忠生北西部の住人は、気軽に出かけられる環境にない。小田急多摩線延伸による小山田新駅を早期に実現し、そこを拠点として、北部丘陵の活性化にも資する、地域住民と来訪者の新たな交流・協働の創造となるような、自然と調和したこれからのまちづくりを進めていただきたい。
57	未着手の都市計画道路である町田3・4・40号線（上・下小山田町）は、早急に完成できれば、町田市中心部と八王子方面を結ぶ重要な幹線道路の役割を果たし、移動しやすい交通体系の構築に資すると共に、北部丘陵地域の活性化にもつながるため、優先整備路線としていただきたい。
58	都市計画道路の町田3・4・40号線（上・下小山田地域分）が完成すれば町田市中心部と八王子方面を結ぶ重要な幹線道路の役割を果たせると考える。この路線は北部丘陵（西山中地域）や都立小山田緑地の活性化にもつながるため、東京都に優先整備路線として働きかけてほ

	しい。
59	小山田地域について都市計画道路3・4・40号線は多摩市側は完成し、町田市側が未着手になっている。町田市側がすべて完成すれば「アクセスしやすいモビリティ」が実現する。また北部丘陵の活性化にも大いにつながることから、ぜひ優先整備路線としてもらいたい。
60	移動しやすい交通体系の構築手段として、自動運転やMaaSより実現性の高いEVカーシェアリングも検討いただきたい。災害時には地域の非常用電源としても活用できる。
61	生産緑地の課題として2022年問題に触れているが、生産緑地を続けるための手段としてソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）をおすすめする。固定資産税を抑えつつ売電による収入補填で地主にメリットがある上に緑地の保全につながる。地主の高齢化で営農が困難な場合は、農地バンクで農業を行ってくれる小作人・農業法人の紹介を受けることで営農の継続が可能となり、都市農業が保全される。
62	今後増々自然災害が多発すると予想されるが、町田市では雨に起因するものが主なものと考えられる。町田市においては鶴見川が源流域となっており、オープンスペースの活用には流域治水の考え方を考慮すべきである。
63	忠生地区では、ゴミ最終処分場等跡地のまちだスポーツ公園（交通公園含む。）の一部も整備が始まる予定であるが、忠生の場合は、ブラッシュアップでなく、地域の再生、バリューアップを目指してほしい。自然環境豊かな資源を活かした面的な整備で、新たな交通体系の構築を加えた「ランドデザイン」の実現が必要だと考える。市民協働で広い忠生地区のまちづくりをお願いしたい。
64	多くの若者が居住に町田市を選択するためには、家賃の大幅補助・市営住宅・都営住宅優先入居・家具や冷蔵庫付きの住宅の建設・整備など（これは学生向きにもなる）が必要。

(9) 政策9「みんなが安心できる強いまちになる」に関するご意見（4件）

No.	ご意見の概要
65	なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向の「3 インフラの耐災害性向上」の文章に「災害時に避難所となる拠点施設について、エネルギーの自立化・多重化を検討し、エネルギーを確保することが重要」との視点を加えて欲しい。
66	共助による災害時の備えとして、町内会・自治会と連携して、太陽光発電を設置している家庭が停電時に「災害時協力電源」として近所へ電気をおすそ分けできる仕組みをつくることを提案する。
67	充実した身近な医療機関と、高度な医療提供ができる総合医療機関がの誘致が必要である。また、廃校になった小学校や中学校の跡地を有効活用する方法などで、内科、歯科、眼科、整形外科などを集めた、駐車場完備の医療団地のような、地域密着分散型医療の展開を町田市がリードしてはどうか。
68	相原には医院はあっても病院が無いので、深刻な病は近隣の市の大病院に通うことになる。そのため、かかりつけ医は他市町村になっているのが現状である。町田市の健康診断も、他市のかかりつけ病院で受けられるように特例を設けられないか。 災害となれば災害場所に近い市との連携は必至である計画には連携の言葉を挿入し、実際に平時から準備をしておいてほしい。

3. (仮称) 経営基本方針に関するご意見 (11 件)

(1) 基本方針 1 「共創で、新たな価値を創造する」に関するご意見 (3 件)

No.	ご意見の概要
69	最新テクノロジーを活用していくには、数精鋭の専門チームを立上げ、国が進めているスマートシティやスーパーシティの成功事例から町田市でも役立つものを展開していくことを継続的に行える仕組みづくりが必要である。新しいテクノロジーを活用する利用者への教育効果を、ひとつの指標とすることを提案する。
70	基本方針 1 「多様な主体との協力体制を強化する」について、「多様な主体」には市民も入ると思うが、市民の意見を聞き、一緒に作り上げるということをやっていただきたい。
71	デジタル化はある程度許容できて高齢者にとってはハードルが高い。ひとりも取り残さない方向で考えていただきたい。 マイナンバーカードは、情報漏れなど想定外のことがおこることを想定してほしい。利用され方にも危惧を感じている。

(2) 基本方針 2 「対話を通して、市役所能力を高める」に関するご意見 (3 件)

No.	ご意見の概要
72	現場を委託や指定管理に任せてしまっは、「対話を通して、気づきを得ることで、職員の意識改革や業務改革を進め、市民に信頼される行政経営を行う」ことは難しいと思う。
73	改革項目の「強くしなやかな組織を構築する」に「防災上、重要な公共施設等については、発災後も機能を維持できる、強靱性に優れた自立分散型エネルギーの導入を進めていきます。」と追加してほしい。
74	基本方針 2 「対話を通して、市役所能力を高める」はは本当に大事なことだと思う。色々な問い合わせに 市役所に電話すると担当者が自ら名乗り、対応も大変親切で質問にもキチンと答えてくれる。是非、今後もこのような調子でお願いしたい。

(3) 基本方針 3 「次世代につなぐ財政基盤を確立する」に関するご意見 (5 件)

No.	ご意見の概要
75	北部丘陵には、市が所有している山林・農地が 100ha 以上あるといわれている。この土地は 15 年以上も放置状態である。貴重な市有財産であることから、早急に土地の集約等の活用策を検討していただきたい。
76	市有財産の活用については、現在ほとんど塩漬け状態の北部丘陵地域の市有財産は多量にあり、これを、開発を含めて将来活用する具体策を作成すべきと考える。
77	市有財産の利活用には、重要なテーマとして、市が所有するみどりも検討の対象とすべきである。施策 3-2 「4 里山環境の活用と保全」は民有地も含まれるが、市有地については市有財産としての視点も重要と考える。
78	市は、北部丘陵地域内で市有地としてまとまっている地域があるにも関わらず、15 年以上にわたりほとんど活用がなされていない。市民のための有効な利活用策を早急に検討していただきたい。

79	市有財産の売却は視野に入っていないのか。市民の貴重な財産ではあるだろうが、それによって大きなメリットが得られるのならば、それも選択肢の一つに挙げられると考える。
----	--

4. 「(仮称) なりたい未来」を実現するための横断的なテーマに関する
ご意見 (1 件)

デジタル化による行政サービス改革に向けて

～町田市デジタル化総合戦略～についてのご意見 (1 件)

No.	ご意見の概要
80	コンビニでいろいろな手続きができるだけでなく、市の施設でも、オンライン化を進めていただきたい。現在、市の公共施設にはWi-Fi 環境がない。「e-まち実現」プロジェクトがどのようなものか具体的にはわからないが、早急を実現してほしい。

5. その他、(仮称) 未来づくりビジョン2040全体 または 市政全般に
関するご意見 (19 件)

No.	ご意見の概要
81	キャッチコピーについても、投票を行ってよりPRするより、実質的な成果で市のPRをすべきである。
82	シカ、イノシシなどの鳥獣被害は多くないのか。もし多い、今後増える見通しならば、ジビエ料理の拡充なども考えて良いのではないか。
83	町田ゼルビアや野津田競技場の活用は考えられないか。特に、今年2月に新スタンドが竣工する。それを積極的にアピールしていく必要があるのではないか。
84	税金の使い方を考え直してほしい。人口も減る中で、モノレールやリニア新幹線関係やサッカー場など大型開発に使うのではなく、地域住民の福祉向上、日常生活が安心して暮らせる方向で税金を使ってほしい。
85	公共の文化施設は市民活動を支え、文化向上に寄与するため、使命感を持って職務に当たっていただきたい。 民営化についても、経済効率優先で血の通った施設運営ができない、責任の所在が不明確になる恐れがあるため、市が責任を持って運営していただきたい。 また、施設使用料の値上がりは規模の小さなグループには大問題であり、簡単に“受益者負担”を持ち出さないでほしい。
86	北部丘陵の豊かな自然環境を町田ならではの地域資源と捉えるならば、それを分断するような交通網(多摩都市モノレールの延伸や道路の整備など)の建設は、生物多様性保全の観点から、計画の再考、路線の変更など、十分な議論が必要である。建設を進める場合は最大限、自然環境への影響を少なくする必要があり、保全策を講じなければならない。
87	多摩都市モノレールの延伸は、現在生息が確認されているムササビの生息域を分断し、地域的な絶滅を加速させるリスクがある。生物多様性保全の観点から、町田にすむ生きものを将来に引き継ぐことが求められている。絶滅リスクを回避する方策を考えていただきたい。

88	<p>芹が谷公園内に 仮称「国際工芸美術館」を建設する際、国際版画美術館と接続するため、誇るべき高水準にあり市民が活用している版画工房を廃止するという設計は、この公園のコンセプトに反する非文化的な方策であり、再考すべきである。</p>
89	<p>この先、少子高齢化、人口減少が予想される中において、モノレール等つくることは、あらゆる面で必要ないと思う。</p> <p>モノレールの計画では芹が谷公園の真上を通ることになっているが、政策8に反している。さらに、地震、台風等の激甚災害が多発しているなかで箱もの、土木工事に新たな費用を使うべきではない。</p> <p>基本方針3「次世代につなぐ財政基盤を確立する」という観点においても、財政が逼迫している中では不必要ではないか。</p>
90	<p>市はモノレール延伸計画を市長の選挙公約の1つとして発表し、促進署名運動などでアピールしているが、反対である。</p> <p>①市民への情報開示、審議会などでの説明等が不足しており、市民の声を聞いていない。</p> <p>②少子高齢化が進む町田では人口減でモノレールの需要が減り、営業が成り立たなくなる。撤去も困難で負の遺産になる可能性が大きい。</p> <p>③景観を大きく損なう。地震の安全性も疑問である。</p> <p>④他の自治体ではBRTを導入し、成功例が多い</p>
91	<p>審議会も開かず、モノレールの短所は一切知らせず、いきなり2018年に出された「モノレールをこれからのすべてのまちづくりの前提とする」という市長声明は「市民と共にまちづくりを」というスローガンと真逆である。</p> <p>コロナ禍で困窮している市民は大勢いるのですから人材も税金も、もっと有効に使って欲しい。</p> <p>実現性、効果、効率の確かな「まちづくり」を円滑に進めるためにも、スタートに立ち返って検討してほしい。</p> <p>かつての「モノレール促進協議会」の場で専門家が提言した、町田に相応しいと思われるBRTやLRTを加えて、「審議会」を持ち、再検討をし、市民に説明すべきである。</p>
92	<p>リニア中央新幹線の橋本駅（神奈川県駅）の開設（2027年予定）は、相模原市だけでなく、町田市域にも近接しているため駅を核とした両市によるまちづくり協議を進めていただきたい。</p>
93	<p>リニア中央新幹線について、地下の工事は地上に影響しないのを前提に工事が進められていますが、同じシールド工法で行われた調布で起きたような陥没事故、振動等の出ない保障があるか。</p> <p>将来、人口は減り、早く移動する必要性も減る中で、採算や事故を考えるとマイナスとなるような負の遺産を後に残さないよう、工事を止めてほしい。</p>
94	<p>すべての政策基盤に係わる公共交通機関の多摩都市モノレール、小田急多摩線の延伸について記述を求める。</p>
95	<p>現在道路付随設備の街路樹において、樹木の種類は、ケヤキや桜など、大樹になるものが見受けられ、これらの伐採や選定に多額の費用が必要となります。</p> <p>SDGsの観点から、街路樹は将来なくすか、又は、「ハナミズキ」等の矮性の樹木にすべきです。道路に大きな街路樹は不要と考えます。選定作業は交通の妨げにもなる。</p>
96	<p>モノレールの建設は、大きなコンクリの脚が立ち、陽陰のできる住居や生活を壊す。これ以上</p>

	<p>の人工的で便利な生活は不要なのではないか。税金の使い方もっと市民と相談すべき、意見を聞くべき。</p>
97	<p>相原には医療機関が少ない。皮膚科などがなく、相模原へ子どもを連れていくため毎回医療助成申請をするのが手間である。メディカルセンターなどが必要だ。</p>
98	<p>町田市の無電柱化推進計画の基本的な考え方の、「③景観の観点」について、より面(区域単位)をより重要視した計画にしたほうがよいのではないか。町田市の未来ビジョンとして、町全体に電柱や電線のない街並みを望む。</p>
99	<p>2015年3月にまちづくり要望の「忠生地域バリューアッププラン」、昨年1月には「忠生グランドデザイン」のプランを提案した。「コミュニティ・シェアサイクル事業ネットワークの構築」「忠生ツーリズムの展開」「広域的な鉄軌道の拠点駅とアクセスするモビリティネットワークの形成」は、「忠生まちづくり会議の立ち上げとエリアマネジメント活動の実践」で成し遂げるものです。この事業は(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040の趣旨・位置付け・構成と期間と合致するものとする。</p>